



大辺路刈り開き隊
代表 上野一夫 さん

熊野古道・大辺路が世界遺産に追加登録され、本州最南端の串本町が「世界遺産の町」として誇らしくアピールできるようになりました。

12年前を振り返ると、町内の大辺路が世界遺産に登録されるなんて想像すらすることがなく、まるで夢を見ているようです。

当時、発足したばかりの刈り開き隊に加わり作業に勤しんだのですが、古道だと思って刈り開いた道は農道だったり、ただの山道を古道だとして刈り開いたりという経験もしました。そのような中、田並の故河野九一先生の調査や、地域の古老からの聞き取り、明治初期の古地図を読み解くことによって不明

喜びの声

だったルートを確定できるようになりました。倒木やシダ、灌木に覆われ、不法投棄されたゴミが散乱していた古道を刈り開き、敷かれた石畳を見た時の感動は、昨日のことのように思い出されます。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」のキーワードは「文化的景観」です。平見風景や薪炭の利用、植林、魚付き林として守ってきた森など、自然の中で人々が暮らしてきたことなのです。世界遺産登録を堅苦しく考えることなく、もっと接して楽しみたいのです。



登録決定を受けてバンザイをする大辺路刈り開き隊と地元住民の皆さん——富山平見道にて

10月24日に串本町にある新田平見道、富山平見道、飛渡谷道、清水峠が世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録されました。今年4月に日本遺産に認定された熊野灘の捕鯨文化に関するストーリー「鯨とともに生きる」の構成文化財の一つには河内祭の御舟行事があり、「世界遺産・日本遺産のまち」として国内外に認められ、大変喜ばしく思います。

12年前の登録当時、荒廃して確認できなかった古道は、「大辺路刈り開き隊」を中心とした住民の方々のご尽力によって整備されました。今回の世界遺産登録は、永年の悲願が実り、今後のまちづくりの大きな励みとなるものであります。

この価値ある遺産を次の世代に継承するとともに、今後のまちづくりや地域の活性化に繋げてまいりたいと考えております。

串本町長 田嶋 勝正



熊野古道は、紀伊山地に位置する異なる3つの霊場を結ぶ参詣道として極めて重要な役割を果たし、「蟻の熊野詣」と例えられるほど多くの人々が列をなしてこの道を歩いた歴史があります。

大辺路には古道の苔むした石畳や石段、石碑、石仏が点在しており、古道の佇まいを感じられ、素晴らしい眺望も楽しめます。

歴史や自然景観など魅力あふれる古道にぜひ足を運んでみてください。

◇お問い合わせ先◇ 串本町教育委員会 TEL 0735-62-0006
串本町役場 産業課 TEL 0735-62-0557

追加登録までの経緯

平成16年7月7日、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されました。紀伊山地の霊場と参詣道は、神仏習合の聖地「熊野三山」、修験道の拠点「吉野・大峰」、真言密教の聖地「高野山」これらの信仰の地を結ぶ巡礼路とその周囲にある豊かな原生林等も含み、人間の様々な営みと自然が一体となって形づくられた「文化的景観」からなる資産です。

しかし、登録当時、参詣道の経路が不明で途切れ途切れで整備が進んでおらず、荒れている箇所がありました。

そこで、「大辺路刈り開き隊」が中心となって草木に覆われた道の草刈り等の取り組みを重ねてきました。また、和歌山県は世界遺産の追加登録に向けて平成22年から不明経路の調査を実施。語り部になった方々を中心に、埋もれた熊野古道の発見・調査に取りかかりました。

2004年2月からスタートした大辺路刈り開き隊による大辺路の整備活動。草刈りや地ならし、清掃活動、道の探索などの活動を長きにわたって取り組まれました。

現在も定期的に清掃活動や古道の点検が行われており、訪れた人が歩きやすいように整備されています。

